

連続セミナー

Black Lives Matter 運動から学ぶこと

—多文化共生、サステナビリティについて考えるために—

第5回
5th

アフリカ・グローバリゼーション・BLM

今回のセミナーは、第一期の締めとして、セミナー企画者であるサステナビリティ研究の担当者2名がアフリカとグローバリゼーションの観点からBLMを考察する。

アフリカ研究者が
BLMから学んだこと

武内 進一

(現代アフリカ地域研究センター/
大学院総合国際学研究院教授)

世界システムとBLM:
極東からグローバルサウスを
考える

中山 智香子

(大学院総合国際学研究院教授)

2021年2月10日(水)17:40~19:40
Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語:日本語
- 参加費:無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 参加ご希望の方は、2月5日(金)正午(日本時間)までに、右のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。

ホームページからも登録できます。

http://www.tufs.ac.jp/event/2020/210114_1.html

- 問い合わせ先:BLM-seminar@tufs.ac.jp (連続セミナー担当)



QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。

共催:東京外国語大学多文化共生研究創生WG、
現代アフリカ地域研究センター、
海外事情研究所

▶ 今後開催予定テーマ

- 現代アメリカ文学と芸術におけるBLM
- BLMの新しい地平 一機会均等に向けて
- BLMの可能性:人種とジェンダーの視点から ほか

アフリカ・グローバリゼーション・BLM

「アメリカの黒人」という言葉が特殊な意味をもつように、黒人問題はアフリカとアメリカで異なる位相をもつ。だが近代以降のグローバル世界で奴隷制と資本主義が進展し、科学的普遍主義を携えた西洋的意識が、「黒」や「有色」を貶めてきた歴史は厳然と存在する。連続セミナー第5回は、第一期の締めとして、セミナー企画者であるサステイナビリティ研究の担当者2名がアフリカとグローバリゼーションの観点からBLMを考察する。

中山 智香子

(大学院総合国際学研究院教授) 専門はグローバルスタディーズ(現代経済思想、社会思想)。カール・ポランニーの経済人類学的視点などを援用し、グローバル世界を「周辺」と「サステイナビリティ」の観点から研究。著書に『経済学の墮落を撃つ:「自由」vs「正義」の経済思想史』(講談社現代新書、2019年)など。BLMの潜勢力は現代世界の一縷の希望ととらえている。

武内 進一

(現代アフリカ地域研究センター/大学院総合国際学研究院教授)

専門はアフリカ研究。ルワンダやコンゴ民主共和国を中心に政治、紛争、土地問題などを研究。著書に『現代アフリカの紛争と国家—ポストコロナル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』(明石書店、2009年)など。BLMセミナーを通じて、「アメリカの黒人」とアフリカとの関係の複雑さに目を開かされた。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

共催: 東京外国語大学多文化共生研究創生WG、現代アフリカ地域研究センター、海外事情研究所

《 今後開催予定テーマ 》

- 現代アメリカ文学と芸術におけるBLM
- BLMの新しい地平 — 機会均等に向けて
- BLMの可能性: 人種とジェンダーの視点から ほか